

臨床栄養科

- 1→基本的内容を理解できる
- 2→業務の補助ができる
- 3→人に聞きながらほぼできる
- 4→業務内容を理解し自信をもって1人でできる
- 5→業務を指導することができる

新入
職員
(1-2
年目)

初級
職員
(3-5
年目)

中堅
職員
(6年
目以上)

主任
相当

課長
補佐
相当

課長
相当

	新入 職員 (1-2 年目)	初級 職員 (3-5 年目)	中堅 職員 (6年 目以上)	主任 相当	課長 補佐 相当	課長 相当
【1】Food Management 1) 献立調整						
1 常食の基準給与栄養量の設定						
2 入院患者構成・給食システムに合った食種分類を設定する						
3 やわらか食の給与栄養量を設定する						
4 流動食の給与栄養量を設定する						
5 治療食の給与エネルギー量を設定する						
6 治療食の給与たんぱく質量を設定する						
7 治療食の給与脂質量を設定する						
8 治療食の給与糖質量を設定する						
9 治療食の給与ミネラル量を設定する						
10 治療食の給与ビタミン量を設定する						
11 嚥下食の形状の設定をする						
12 個別対応食の献立作成をする						
13 個別対応食の調理指示をする						
14 濃厚流動食・栄養剤の調整をする						
15 普通ミルクの調整をする						
16 治療乳の調整をする						
17 アレルギー食の献立作成と調理指示をする						
18 信仰や主義に応じた食事調整をする						
19 個別食事調整に対するマニュアルやルールを作る						
20 嚥下検査食を調整する						
【1】Food Management 2) 給食運営						
1 食事箋						
2 予定及び実施献立						
3 食料品消費表						
4 発注書・納品書						
5 在庫食品受払簿						
6 給与栄養量の算出						
7 食品分類表の作成						
8 食品群別加重平均栄養給与量の作成						
9 常食の食品構成表の作成						
10 治療食の食品構成表の作成						
11 検査簿について理解する						
12 検査で食事の適否を評価し、問題点を抽出する						
13 検査で抽出された問題点を改善する						
14 調味料を含む食材の給食への適否を評価する						
15 一般食の献立が入院患者に適しているか評価する						
16 治療食の献立が入院患者に適しているかどうか評価する						
17 食事の問題点を抽出し献立修正する						
18 食材の予定使用数の発注、実施に合わせた調整をする						
19 使用食材量が献立・食数(予定使用量)に対して適正か評価する						
20 使用食材の食品衛生上の安全性について問題点を抽出する						
21 使用食材の食品衛生上の問題点を改善する						
22 食器や調理器具の購入計画を立てる						
23 調理機器の修理・購入について検討する						
24 調理作業案を食品衛生に配慮して検討する						
25 配膳に関する問題点を抽出し、改善策を指示する						
26 残飯や下膳された食器の衛生的な処理を指示する						
27 延食の管理を指示する						
28 安全性、作業効率を考慮した作業工程を作表する						
29 調理従業者の健康管理について検討する						
30 大量調理管理マニュアルに沿った調理マニュアルを作成する						
31 大量調理管理マニュアルに沿った中心温度など衛生チェック表を作る						
32 災害時用保存食品の納入・保管管理する						
33 災害時を想定して食事に必要な物品を用意する						
34 災害時の食事献立作成する						
35 食品納入業者を適正に選定する						
36 経管栄養用の流動食の選定、発注・在庫管理						
37 治療用食品の選定、発注・在庫管理						
38 調理室内の環境管理						
39 給食管理ソフトの選択						
40 給食ソフトを用いて合理的に給食管理をする						
41 栄養量などの給食に関する情報を提示する						
42 より満足度を上げる食事サービスを立案、実施する						
43 改善された食事の再評価と修正をする						
44 給食関連必要書類の作成、保管をする						
45 調理・配膳・洗浄担当者へ食品衛生教育をする						
46 配膳前の点検作業						
【1】Food Management 3) 給食経営						
1 給食内容や社会的な経済状況も考慮して給食経費を設定する						
2 病院の予算を考慮して給食経費を設定する						
3 給食経費について統計処理し、その適正について評価検討する						
4 患者ニーズにそった給食提供が可能な給食受託業者を選定する						
5 給食委託契約書の作成						

6	給食経費請求が正当か否か評価する						
7	受託側、委託側の双方に不利益にならないよう委託費を設定する						
8	給食経費について問題点など情報を発表報告することができる						
【2】Clinical Nutritional Management 1)医療記録							
1	食事オーダーや食事内容の変更などの記録						
2	医師の指示や他職種の依頼内容について記録する						
3	栄養管理計画書の記録						
4	栄養スクリーニングの記録						
5	栄養管理情報提供書の作成						
6	NST回診記録						
7	連携バスの栄養シートへの記録						
8	栄養指導報告書の記録、指導料の入力と栄養指導指示の代り入力						
【2】Clinical Nutritional Management 2)栄養アセスメント							
下記の栄養評価がEBNに基づいて実施できる							
1	合併症のない2型糖尿病						
2	合併症がある2型糖尿病						
3	3つ以上もしくは生命維持にリスクのある合併症がある2型糖尿病						
4	合併症のない1型糖尿病						
5	2つ以上もしくは生命維持にリスクとなる合併症がある1型糖尿病						
6	インスリン療法を実施している2型糖尿病						
7	肥満						
8	合併症のないレベル3以下のCKD						
9	合併症のあるレベル3以下のCKD						
10	合併症のないレベル4以上のCKD						
11	合併症のあるレベル4以上のCKD						
12	人工血液透析療法を実施している栄養状態良好のCKD						
14	人工血液透析療法を実施している栄養状態不良のCKD						
16	肝性脳症のない非代償期の肝硬変						
17	肝性脳症のある非代償期の肝硬変						
18	劇症肝炎						
19	胆管炎、胆のう炎						
20	慢性、急性膵炎						
21	脳血管障害						
22	心疾患						
23	慢性呼吸不全						
24	急性呼吸不全の栄養評価						
25	上部消化管疾患						
26	下部消化管疾患						
27	敗血症の栄養評価						
28	熱傷の栄養評価						
29	多発外傷の栄養評価						
30	食道癌の周術期管理						
31	胃切除の周術期管理						
32	短腸症候群を含む小腸切除						
33	大腸切除						
34	イレウス						
35	人工肛門造設状態						
36	褥瘡						
37	消化器系悪性疾患						
38	癌化学・放射線療法						
39	終末期						
40	移植後						
41	口腔外科領域						
42	継続する下痢						
43	低栄養						
44	過栄養						
45	高齢者						
46	妊産婦(悪阻、切迫流産)						
47	糖尿病合併のある妊産婦						
48	貧血						
49	成長障害						
50	幼児						
51	学童						
52	経腸栄養管理中						
53	静脈栄養管理中						
54	経口摂取不良						
55	身体計測の実施・記録ならびにその評価						
56	間接熱量計での測定・記録ならびにその評価						
57	摂取栄養量の算出						
58	必要栄養量の算出						
59	脱水・溢水の評価並びに必要な水分量の設定						
【2】Clinical Nutritional Management 3)栄養ケアプランニング							
下記の栄養計画がEBNに基づき、具体的かつ実行可能な方法で立案できる							
1	栄養補給ルートの設定	1	2	3	4	5	6
2	食事種類、食事形状の選択						
3	現実的な栄養量の設定 提案						
4	身体状況維持のための栄養補給プラン						
5	身体状況改善のための栄養補給プラン						
6	病態改善のための栄養補給プラン						
7	機能を補完もしくは負担のかけない栄養補給プラン						

8	QOLを重視した栄養補給プラン						
9	成長を考慮した栄養補給プラン						
10	摂取量UPのための栄養補給プラン						
11	経管栄養剤の選定ならびに投与速度、投与ルートの設定						
12	補助食品の選定と提供時間の設定						
13	静脈栄養剤の選定並びに投与速度、ルートの設定						
14	集中治療時の栄養投与計画						
【2】Clinical Nutritional Management 4)Nutritional Education for Patients		1	2	3	4	5	6
1	入院個別栄養食事指導業務の流れ						
2	外来個別栄養食事指導業務の流れ						
3	集団栄養食事指導業務の流れ						
4	指導資料の作成						
5	集団教室の講師						
下記の内容についてEBNIに基づき、具体的かつ分かりやすく説明ができる							
6	食糧構成と栄養摂取量の提示						
7	エネルギー量調整(メタボリックSyd)						
8	たんぱく質量調整(腎・肝)						
9	脂質量調整(膝・動脈硬化)						
10	糖質量調整(糖尿病・てんかん)						
11	塩分量調整						
12	糖尿病交換表の使い方						
13	腎臓病交換表の使い方						
14	カーボカウント						
15	分岐鎖アミノ酸含有栄養剤の使用						
16	成分栄養剤の使用						
17	頻回(分割)食						
18	摂食嚥下障害に対する食事形状調整						
23	食物アレルギー						
24	食物繊維・シンバイオティクス						
25	免疫栄養療法						
26	術後前栄養管理						
27	術後後栄養管理						
28	食欲低下						
29	治療用食品の紹介						
【2】Clinical Nutritional Management 5)Education for Clinical Staff		1	2	3	4	5	6
1	病態別栄養量と内容について他職種に根拠に基づいて説明できる						
2	栄養補給ルート別のメリット・デメリットについて根拠に基づいて説明できる						
3	重症時の栄養ケアプランについて根拠に基づいて説明できる						
4	食事形状について根拠に基づいて説明できる						
5	医療記録での食事オーダーについて説明できる						
6	栄養状態別レベルの評価を他職種が理解できるように説明できる						
7	経管栄養剤について医学的根拠に基づいて説明できる						
8	治療用食品についてその必要性並びに使用方法、購入方法など説明できる						
9	栄養評価方法についてその根拠を明確にして説明できる						
10	医療者向けの勉強会の計画立案ができ、実施に向けて行動できる						
11	責任者として医療者向けの勉強会を開催することができる						
【2】Clinical Nutritional Management 6)Education for Students or Nutritionists		1	2	3	4	5	6
1	プリセプターとして適切な教育ができる						
2	実習・研修のカリキュラムを作成						
3	実習・研修の目次評価						
4	実習・研修の包括評価						
5	実習・研修の受託 実習協定書作成						
6	他部署と連携して教育システムを構築する						
【2】Clinical Nutritional Management 7)Clinical Team Care		1	2	3	4	5	6
1	NSTに参加する						
2	NST以外のチーム医療へ参加する						
3	NST専従者の業務						
4	NST以外のチーム医療へ参加し、チーム医療に貢献する						
5	NSTの事務局として院内でのシステム構築をする						
【2】Clinical Nutritional Management 8)Clinical Team Careの標準化		1	2	3	4	5	6
1	疾病別クリカルパスの作成に参加する						
2	栄養指導手順の計画・作成ができる						
3	クリカルパスや栄養指導手順の更新や見直しをする						
4	定期的なクリカルパスや栄養指導プロトコルの更新や見直しができる						
5	栄養療法のOut Comeの設定、評価をする						
6	クリカルインジゲーターの設定ができる						
【3】System Management 1)スキル向上・地域連携		1	2	3	4	5	6
1	学会の参加を積極的に行っている						
2	研修会の参加を積極的に行っている						
3	学会等での発表ができる						
4	院内研修会での講師ができる						
5	院外研修会での講師ができる						
6	地域の管理栄養士・栄養士の連携を作る						
7	学会・研究会などを通じて管理栄養士・栄養士の連携を作る						